様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	明星大学
設置者名	学校法人明星学苑

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
理工学部	総合理工学科 物理コース 物理学系	夜・通信	70	24	14	108	13	
	総合理工学科 化学・生命科学コース 生命科学・化学系	夜・通信			18	112		
	総合理工学科 機械工学コース 機械工学系	夜・通信			26	120		
	総合理工学科 電気工学コース 電気電子工学系	夜・通信			24	118		
	総合理工学科 環境科学系	夜・通信			24	118		
人文学部	国際コミュニケーション学科	夜・通信		－	26	96		
	人間社会学科	夜・通信			16	86		
	日本文化学科	夜・通信			25	95		
	福祉実践学科	夜・通信			128	198		
経済学部	経済学科	夜・通信		－	36	106		
情報学部	情報学科	夜・通信		－	28	98		
教育学部	教育学科	夜・通信		7	223	300		
経営学部	経営学科	夜・通信		－	148	218		

デザイン学部	デザイン学科	夜・通信		－	179	249		
心理学部	心理学科	夜・通信		－	54	124		
建築学部	建築学科	夜・通信		－	101	171		
データサイエンス学環		夜・通信		－	30	100		
教育学部（通信教育課程）	教育学科	夜・(通信)			14	14		
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.meisei-u.ac.jp/shugaku-shien/

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	明星大学
設置者名	学校法人明星学苑

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.meisei.ac.jp/mg/education/exective.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	税理士・公認会計士	2025.5.30～2028 年度定時評議員会終結時	組織運営体制のチェック機能
非常勤	弁護士	2025.5.30～2028 年度定時評議員会終結時	組織運営体制のチェック機能
非常勤	株式会社代表取締役	2025.5.30～2028 年度定時評議員会終結時	組織運営体制のチェック機能
非常勤	一般社団法人会長	2025.5.30～2028 年度定時評議員会終結時	組織運営体制のチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	明星大学
設置者名	学校法人明星学苑

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 本学では、全学的に統一した書式で授業計画（シラバス）を作成している。記載項目としては、「科目名」「担当教員」「授業形態（講義、演習、実験・実習)」「授業の到達目標」「授業科目の概要」「成績評価基準」「評価の方法・総合評価割合」「テキスト等、学修のために購入・準備が必要なもの」「履修上の注意事項、事前・事後学修に必要な目安時間、フィードバックの方法、学修上の助言」等であり、学生の授業科目受講の準備や授業科目選択に資する内容となっている。 シラバスの作成は、例年１月に、副学長よりシラバス作成要領に準拠して作成するよう、担当教員に対して依頼される。シラバスは概ね１月から２月にかけて担当教員が作成し、その後、学部長等により記載内容の確認が行われる。確認されたシラバスは、３月中旬に本学の学生向けポータルサイト「勉天」及び本学公式サイトにおいて学生に周知されるとともに、学外にも公表される。３月中旬に公表することで、学生は履修登録前にシラバスを参照することができる。 通信教育課程では、開講科目全てにおいて科目概要およびスクーリングシラバスを作成し、学生や外部へ公表している。項目としては、「担当教員名」「受講方法」「使用テキスト」「科目概要」「学習上の目標（科目の到達目標、科目の学習要点事項等)」「参考文献」「評価基準（レポート評価、科目終了試験評価)」等を掲載している。 科目概要の作成は、５月の通信教育代表委員会にて作成者が決まり、取りまとめを担当する教員より各科目の担当教員に作成が依頼される。科目の担当教員は８月を目途に科目概要を作成し、通信教育課程長が確認を行う。確認された科目概要およびスクーリングシラバスは翌年１月以降に本学学生向けポータルサイト「StarWeb」及び本学公式サイトで公表される。	
授業計画書の公表方法	・公式サイト（学内者向け情報） https://www.meisei-u.ac.jp/student/ ・学生向けポータルサイト「勉天」 https://benten.meisei-u.ac.jp/uprx ・公式サイト（通信教育課程） https://www.meisei-u.ac.jp/dce/subject/syllabus.html ・学生向けポータルサイト「StarWeb」 https://starweb.dce.meisei-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
　厳格な成績評価を担保するために、全学的に、シラバスには「成績評価基準」「授業の到達目標」「評価の方法・総合評価割合」の項目を設けている。記載内容は学部長等が確認し、不十分な場合には担当教員へ修正を求めている。このように、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に各担当教員が単位授与を行っている。
また、大学設置基準等の単位制度の趣旨に沿うよう、授業時間外に必要とされる学習についても、「履修上の注意事項、事前・事後学修に必要な目安時間、フィードバックの方法、学修上の助言」という項目をシラバスに設け教員へ記載するよう示している。成績評価についての成績評価確認制度も、教則において規程上明確にすることで、厳格な成績評価の担保に資する体制を整備している。これらの成績評価については、『履修の手引』において学生へ周知している。
　通信教育課程では、レポートや科目終了試験においては科目概要で示している評価基準、スクーリング（集中講義）においてはスクーリングシラバスおよび授業の進め方にて示している評価基準を定め、その基準に従い厳格に評価を行っている。また、成績の評価に関する学生からの質問方法は、明星大学通信教育部教則に定めており、成績評価の担保に資する体制を整備している。これら成績評価については、『履修の手引』において学生へ周知している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価は、明星大学学則において、「各授業科目の試験成績の評価は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｐ又はＦ、Ｈで表しＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ及びＰを合格とし、Ｆ、Ｈを不合格とする」とし、合否判定科目の成績評価、評価基準を定めている。

現在は全学的にＧＰＡ制度を導入し、上記の成績評価をグレードポイントにより点数化した上で、履修科目の１単位当りの成績平均点を求めたものを算出している。学生及び教職員は、学生向けポータルサイト「勉天」にて、累積ＧＰＡと学期毎のＧＰＡを確認することが可能である。

この制度によって学生自身は自らの学習状況が把握できるとともに、教職員はこれによって成績の分布状況を把握し、教育指導上の資料とすることができる。

ＧＰＡ制度については明星大学教則に定め、その詳細については『履修の手引』に説明を記して学生への周知徹底を図っている。

区分	評価	評価基準	ＧＰ
合格	S	100～90 点	4.0
	A	89～80 点	3.0
	B	79～70 点	2.0
	C	69～60 点	1.0
不合格	F	59 点以下 試験欠席 受験資格無	0.0

※Ｐ、ＨはＧＰＡの計算対象外

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{4.0 \times \text{Ｓ取得単位数} + 3.0 \times \text{Ａ取得単位数} + 2.0 \times \text{Ｂ取得単位数} + 1.0 \times \text{Ｃ取得単位数}}{\text{総履修登録単位数} - \text{ＧＰＡ対象外履修登録単位数}}$$

通信教育課程では、明星大学通信教育部学則および明星大学通信教育部教則において、成績の評価は、優、良、可、不可で表し、優、良、可を合格とし、不可を不合格とすることを規定している。

区分	評価	評価基準	読み替え
合格	優	100～80 点	Ａ（3.0）
	良	79～70 点	Ｂ（2.0）
	可	69～60 点	Ｃ（1.0）
不合格	不可	59 点以下	―

客観的な指標の 算出方法の公表方法	・『履修の手引』（入学時に学生に配布） ・公式サイト（学則・教則） https://www.meisei-u.ac.jp/about/code.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<table>
<tr><td colspan="2">（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
　大学および学部等において、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、『履修の手引』及び本学公式サイトを通じて公表している。大学の学位授与方針の具体的な内容は「(3)学校教育法施行規則第 172 条の第 2 項に掲げる情報の概要」で示すとおり。
　なお、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき行われる卒業判定・学位授与判定は、教務ユニット教務チームが学部学科の全卒業候補学生の単位修得等の卒業判定資料を作成し、これを各学科及び専攻会議で検討し原案を作成、この原案に基づき学部教授会で審議をし、その結果を受けて学長が決定している。
　通信教育課程における卒業判定は、通信教育代表委員会で審議を行い、審議結果を受けて学長が決定している。
　学位授与に関する条件は、明星大学学則及び明星大学通信教育部学則にて、在学年数及び修得単位数、科目区分ごとの必要単位数、必要単位数の内訳等を定めている。これらに定められている卒業要件は、『履修の手引』等を通じて学生に公表されている。</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する
方針の公表方法</td><td>・『履修の手引』（入学時に学生に配布）
・公式サイト（学則・教則）
https://www.meisei-u.ac.jp/about/code.html</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	明星大学
設置者名	学校法人明星学苑

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/
収支計算書又は損益計算書	https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/
財産目録	https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/
事業報告書	https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/
監事による監査報告（書）	https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/about/appraisal.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　理工学部総合理工学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 理工学部は、技術立国日本を支え、人類の豊かさに貢献するため、幅広い教養と、理学と工学の知識と技術を基礎とした「科学する心」を持ち、自ら考え行動できる道義心の強い技術者を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） **理学系コース（物理学コース、化学・生命科学コース）** 【課題発見・解決】 １．実験・演習・卒業研究を通して理学の基礎的な理解を深め、研究・教育の現場で課題を発見し、解決方法を提案することができる。 ２．社会や自然環境における解決すべき具体的な課題を抽出・分析し、課題に関わる制約条件を考慮した解決策を立案することができる。 【思考・判断】 ３．課題の全体を把握し、自分がやるべきこと・できることを割り出し、実行することができる。 ４．理学的な思考を基に、地球的視点から多面的に物事を捉えることができ、地域及び国際社会に貢献することができる。 【関心・意欲・態度】 ５．技術者倫理に基づき行動し、将来にわたり技術者・研究者・教育者として活躍するため持続的に研鑽し、他者と協働することができる。 【知識・理解・表現】 ６．持続型社会の構築に向けて、日本及び他国の環境や社会的背景に関する知識と教養を有している。 ７．理学に関する幅広い基礎知識、並びに専門分野に関する知識を有している。 ８．事実を正確かつ論理的に伝える文章の作成やプレゼンテーション、並びにサイエンス・コミュニケーションをはかることができる。 【技術・技能】 ９．問題発見・解決のために必要な情報を収集し、実験・調査・データ解析に係る計画を立案することができる。 １０．条件を考慮した最適な実験・調査・データ解析の技術を身に付けている。 **工学系コース（機械工学コース、電気工学コース）** 【課題発見・解決】 １．実験・演習・卒業研究を通して工学の基礎的な理解を深め、研究・開発・教育の現場で課題を発見し、解決することができる。 ２．社会や自然環境における解決すべき具体的な課題を抽出・分析し、課題に関わる制約条件を考慮した解決策を立案することができる。 【思考・判断】 ３．課題の全体を把握し、自分がやるべきこと・できることを割り出し、実行することができる。 ４．工学的な思考を基に、地球的視点から多面的に物事を捉えることができ、地域及び国

際社会に貢献することができる。
【関心・意欲・態度】
５．技術者倫理に基づき行動し、将来にわたり技術者・研究者・教育者として活躍するため持続的に研鑽し、他者と協働することができる。
【知識・理解・表現】
６．持続型社会の構築に向けて、日本及び他国の環境や社会的背景に関する知識と教養を有している。
７．工学に関する幅広い基礎知識、並びに専門分野に関する知識を有している。
８．事実を正確かつ論理的に伝える文章の作成や発表を行うことができる。
【技術・技能】
９．問題発見・解決のために必要な情報を収集し、実験・調査・データ解析に係る計画を立案することができる。
１０．実践の場で求められるデータ計測・収集・処理の技術を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
理工学部は、「自ら積極的に学ぼうとする意志を育てる体験学修」と「問題を発見し、解決できる実践力を身に付ける専門教育」を柱に、理学と工学の基礎的な素養を修得させる「学科共通科目」、専門領域の知識・技術を修得させる「コース科目」、そして学びの集大成としての「卒業研究」に区分して体系的に教育課程を編成する。
また、プロジェクト科目や実験・演習科目といった体験教育を重視し、コミュニケーション能力及びチームワークスキルを養う。更に、複数の概論科目および「専門プログラム」を設置し、コースの枠にとどまらずに、より幅広い学問領域にわたる知識を修得させ、活躍できる分野の選択肢を広げるための教育を行う。
学科共通科目は１ 年生から、コース科目は２ 年生から、卒業研究は３ 年生から配置している。１ 年生は所属コースにかかわらず、学科共通科目に基づく同一のカリキュラムとなっている。フレキシブル入学生には１ 年生での学びを踏まえて、２ 年生進級時に所属コースを選択させる。

1. 教育課程編成の考え方
「物理学コース」「化学・生命科学コース」「機械工学コース」「電気工学コース」の４ つのコースを設け、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を（1）学科共通科目、（2）コース科目、（3）卒業研究で編成する。更にコース科目を「コース基礎」、「コース応用」に区分し、体系的に教育課程を編成する。また、「他コース履修」の仕組みも提供する。

（１）学科共通科目
学科共通科目は、「理工学概論・実験実習」「数学・データサイエンス」「PBL／キャリアデザイン」で構成し、理学と工学の基礎的な素養を修得させる。
１ 年生には「理工学概論」「理工実験実習」「基礎代数学 1」「基礎解析学 1」を必修科目として配置する。「物理学概論」「化学概論」「生物学概論」「機械工学概論」「電気工学概論」といった複数の概論科目から２ 科目を必修とし、分野横断的な学びを具現化させる。更に「物理学基礎実験・化学基礎実験」のいずれか一方を必修とする。これらの科目を通して、数学的思考力の基礎をはじめ、各コースにおける実践的能力、実験を通じた専門分野の基礎を修得させる。「物理学概論・化学概論・生物学概論」および「物理学基礎実験・化学基礎実験・生物学基礎実験（3 年生配当科目）」は理科教職基礎科目でもある。
２ 年生には「データサイエンス概論」「プロジェクト A」「プロジェクト B」を必修科目として配置し、次世代の Society5.0（超スマート社会）で求められるデジタル革新に関する基礎、他者と協働した課題解決および価値創造能力、そして得られた知識を他者に伝えることが出来る表現力およびコミュニケーション能力を修得させる。

（2）コース科目

コース科目は2 年生から配置し、各コースの学修に必要な知識を修得させる。必修科目は物理学コースで18 単位、化学・生命科学コースで27 単位、機械工学コースで26 単位、電気工学コースで18 単位となっている。

コース科目は「コース基礎」と「コース応用」で構成される。コース基礎は2 年生において開講され、専門分野の内容を理解するために必要な基礎知識を習得するための科目であり、主に必修科目で構成される。コース応用は3 年生および4 年生において開講され、各コースの専門知識を修得するための科目である。

更に、2 年生後期から3 年生前期に配置した選択科目を対象に、学びの目的や親和性に応じて関連する科目をグループ化したものを「専門プログラム」と称して設定している。専門プログラムの設定数は物理学コースで5 つ、化学・生命科学コースで5 つ、機械工学コースで3 つ、電気工学コースで3 つである。複数コースの科目から構成されている専門プログラムがあることに加え、他コースの専門プログラムも履修可能とすることで、学修者本位に基づいて、コースの枠にとらわれない柔軟な分野横断的履修を具現化させる。

物理学コース

コース科目では、2 年生に「物理学実験1・2」「解析力学」「量子力学1・2」「電磁気学1・2」「熱力学」、3 年生前期に「統計力学」の必修科目を配置し、自然現象を根幹から理解する方法や、研究・開発・教育に必要な実験・調査・データ解析の技術と数理的・論理的な思考能力を修得させる。さらに、これらの科目を通して、他者と協働した問題解決能力、得られた知識を他人に伝えることができる表現力、及びコミュニケーション能力を修得させる。

専門プログラムでは、理論物理、半導体・物性物理、宇宙科学、地球環境、マテリアルサイエンスのプログラムを設置し、複数のプログラムを履修することによって、コース基礎で得た知識や技能に基づき、地域社会へ貢献することができるような専門的な技術や知識を修得させる。又、世界の共通言語である科学、物理学の視点を通し、地球規模の問題を考える能力を養成する。

化学・生命科学コース

コース科目では、2 年生に「基礎無機化学」「基礎有機化学」「基礎分析化学」「基礎物理化学」「基礎生物科学1・2」「生化学1」「分子生物学1」の講義科目と「化学・生命科学実験1・2」の実験科目を必修科目として配置する。これらの科目を通して、化学・生命科学・環境学に関する領域の基礎的な幅広い知識を修得させる。2 年後期以降の化学・生命科学コースの専門プログラムを履修するための必須な能力を養成する。

専門プログラムとして、合成化学、分子生命科学、環境と資源、機能性材料、生態マネージメントを設置する。これらの中から複数のプログラムを履修させ、化学・生命科学・環境学に関する分野の社会的な要請に資する多様かつ高度な知識を修得できるようにする。応用的な講義科目とともに、3 年生前期に「化学・生命科学実験3」を必修科目として配置し、分子化学、生命科学、環境化学に関する知識と実験技術を基盤とする論理的思考能力を養成する。環境・人口・高齢化等の人類全体に対する諸問題を考える化学・生命科学の専門的な能力を養成する。

機械工学コース

コース科目では、機械工学の根幹である「材料力学1」「熱力学1」「機械力学1」「流体力学1」だけでなく「3D-CAD」を必修科目として設置し、4 年生の「卒業研究」までものつくりのための知識と技術を養成する。さらには専門性の高い「航空宇宙材料学」「知能情報工学」等の科目や体験的な学修（アクティブ・ラーニング）に対応する「機械工学研究A」を配置することで機械工学とものつくりへの深い関心を喚起させる。

専門プログラムでは、乗り物メカニクス、航空宇宙、ロボット・AI のプログラムを設

置し、複数のプログラムをとることによって幅広く機械工学分野を俯瞰し，地域社会へ貢献することができるような専門性の高いものつくりの知識と技術を修得させる。これにより自立した社会人として将来について考えさせ、社会において果たす役割を自覚させる。

電気工学コース

コース科目では、2 年生と 3 年生前期に「電気電子実験」「情報通信実験」「電力電子実験」等の必修科目を配置し、実験を通じて電気工学を基礎から修得させる。また、実験を通じグループで問題を解決し、工学的な報告書作成能力を習得させる。また、2 年生に「プログラミング基礎」「プログラミング応用」の推奨科目を配置しプログラミングによる論理的思考や問題解決能力を習得させる。

専門プログラムでは、エネルギー、制御工学、情報通信プログラムを設置し、各専門分野を深めるとともに、複数の専門プログラムを選択することによって、現代社会が求める先端技術や基盤技術の発展に貢献できるような知識と能力、技能を修得させる。また、電気電子、情報通信といった工学基盤技術を駆使し実用的な課題に取り組める人材を養成する。

(3) 卒業研究

3 年生後期に「ゼミナール」を、4 年生に「卒業研究」（いずれも必修科目）を配置し、コースの専門性を深めさせるとともに、大学での学修の集大成として卒業研究を完成させる。所属研究室は、研究室ごとに定められた受入条件に基づいて、3 年生後期の「ゼミナール」において志望・選択させる。

2. 教育方法の考え方

(1) 実践躬行

体験的な学修（アクティブ・ラーニング）を通して基礎的な知識や技術を実践的に身に付けながら、学生が主体的に課題を発見し、探求できるような学修環境を整える。これらを通して、科学的思考に基づき、論理的なコミュニケーションとプレゼンテーションができる能力を身につけさせる。

(2) 体験的学修環境の整備

講義科目、実験・演習科目及び卒業研究を通して、学生自身が主体的に知識や技術を身に付け、積極的に研究課題に取り組める体験的な学修環境を整備する。

(3) 幅広い専門分野を学ぶ環境の提供

「他コース履修」の枠組みによって、分野横断的な学びの機会を提供する。

(4) 教育目標の達成度の検証による授業改善

授業の教育目標の達成度を授業期間内に課題提出等で確認し、授業改善に努める。

(5) カリキュラムの体系性の検証

それぞれの教育課程が体系化されているか、又それぞれが教育目標の達成に有効であるかについてカリキュラムマップ等を活用して検証する。

3. 評価方法の考え方

(1) 授業の最終的及び中間的到達目標の明示

授業の最終的な到達目標に向かう途中に課題提出を課し、それによって中間的到達目標を受講生に明示することで公正な成績評価の基準を示すことに努める。

(2) 中間的到達目標のフィードバック

提出課題への振り返りにより受講生にフィードバックを行い、最終的な到達目標の達成を支援する。

(3) 中間的到達目標の測定による成績評価

中間的到達目標に対応したレポートや試験によって、最終的な達成の度合いを総合的に判断し、より客観的な成績評価を行うことに努める。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
・AP1：高等学校までの教育の成果として、大学において理工学分野の学問を学ぶ際に必要な基本的な知識を修得している。
・AP2：授業における実験・演習に積極的に取り組み、社会や自然環境における様々な問題・課題に対して主体的に考え、学ぶことができる。
・AP3：本学で学ぶことによって自己実現し、他者とコミュニケーションしながら人や社会に貢献しようという意欲を持っている。
・AP4：世界的な実社会での課題や問題を考える素養を備え、その考えを自身でまとめたうえで他者に伝えることができる。

1．一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験、志望理由（スカラシップ選抜のみ）および面接試験（一般選抜Ⅲ期のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、理工学部総合理工学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

2．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、理工学部総合理工学科で学びを進めていくために必要な能力・資質を、以下のような基準と方法により評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP3 に示す能力・資質を評価します。面接試験における数学・理科科目に関する基礎的な質問により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1 に示す能力・資質の評価も行います。

面接試験における上述以外の質問により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP4 に示す能力・資質を評価します。

3．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、理工学部総合理工学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

適性テストにより、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1 に示す能力・資質を評価します。

面接試験における数学・理科科目に関する基礎的な質問により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1 に示す能力・資質の評価も行います。

面接試験における上述以外の質問により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP4 に示す能力・資質を評価します。

4．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、総合理工学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　人文学部国際コミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
国際コミュニケーション学科は、幅広い教養を身に付け、コミュニケーション・言語研究・異文化理解の領域を横断的に学ぶことを通して、豊かな専門的力量を有し、他者と積極的に関わりながら、互いに理解・協力して問題解決を図り、ビジネス・教育・国際協力などの分野で社会貢献できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
【課題発見・解決】
1．主体性と目的意識を持って収集した情報に基づいて自ら課題発見し、解決することができる。
【思考・判断】
2．各場面・状況に応じ幅広い視点に立って柔軟に思考・判断し、社会で起こる様々な問題の解決に向けて主体的に取り組む実践力を有している。
【関心・意欲・態度】
3．他者と協調・協働しながらコミュニケーションをはかり、遵法精神をもって組織で問題解決に取り組むことができる。
【知識・理解・表現】
4．異文化を理解し、言語・文化的な幅広い知見・教養を備えたコミュニケーション能力（会話・文章）を身に付けている。
【技術・技能】
5．グローバル化した社会において、日本語、英語又は中国語の言語システムを理解し、活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
1．教育課程編成の考え方
国際コミュニケーション学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を（1）学科科目、（2）学部共通科目で編成する。更に学科科目を①必修科目、②選択必修科目、③選択科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

（1）学科科目
①必修科目
1 年生から 4 年生にかけて開講される下記科目で構成する。
1 年生に「基礎研究」、２年生に「専門基礎研究 A・B」、3 年生から 4 年生にかけて「専門研究１～４」を配置し、多様な人々と円滑にコミュニケーションする方法、又、その為に必要な幅広い知見を身に付けさせる。
又、4 年生に「卒業研究」を配置し、個々の文献読解や論文課題を通じて文章によっても自身の意見、考えを表現し、幅広い視点に立って思考・判断、分析する力を養う。
②選択必修科目
1 年生に「実践英語/中国語１A～F」を配置し、１言語を選択履修させる。個別学修及び他者との実践的なコミュニケーション活動、協働的タスク・プロジェクトを通じて、日本語そして英語・中国語を社会で運用する力を養う。
③選択科目
1 年生から 3 年生にかけて開講される科目で構成する。
「フィールドスタディ」「フィールドワーク」「サマースクール」「留学」等の科目を配置し、実践的な学び・活動を通じて、多様な文化、習慣、考え方に触れる機会を多く作り、自ら課題を発見し、解決する力を養う。又、グループワーク及び個々の学修を通じて、他者と円滑にコミュニケーションしながら組織で問題解決していく態

度・方法を養う。

（２）学部共通科目
人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。

２．教育方法の考え方
（１）グループ内、グループ間の協働、話し合い、発表を主体とした教育を行う。
（２）グループ活動での学びや気づきが多い体験を通して、自律的な学修を促進する。
（３）タスク・プロジェクト遂行型の活動を積極的に行う。

３．評価方法の考え方
（１）課題に対する日々の取り組みを重視して成績評価を行う。
（２）最終テストのみならず、課題、各授業活動への参加姿勢・態度等を総合的に加味して成績評価を行う。
（３）タスク・プロジェクトベースの科目においては、教員のみならず、複数の人々による評価・意見を総合的に考慮して成績評価を行うこともある。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
・AP1：基礎的な教養を持っている人。
・AP2：英語又は中国語の学修に強い意欲を持っている人。
・AP3：異文化理解に対して強い意欲を持っている人。
・AP4：社会で使えるコミュニケーション能力を持っている人。
・AP5：自分の考えや行動に責任を持ち、しっかり自己管理ができる人。留学やグループワークなどの体験学習を通して、社会人基礎力を伸ばせる人。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準
一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験、志望理由（スカラシップ選抜のみ）および面接試験（一般選抜Ⅲ期のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、国際コミュニケーション学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準
学校推薦型選抜では、国際コミュニケーション学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。
エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。
調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP5 に示す能力・資質を評価します。
面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準
総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、国際コミュニケーション学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。
エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。
小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」

を基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。
面接により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、国際コミュニケーション学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　人文学部人間社会学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 人間社会学科は、幅広い教養及び社会学的な思考と社会調査に関する専門知識を有し、市民生活において主体的に物事に関心を持ち、多様な他者の存在を受け入れながら、論理的かつ複眼的な視点から問題を解明する社会学的視点を身に付け、不断に自分の人生をデザインできる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 １．現実の社会的な問題を認識し、問題に対処することができる。 【思考・判断】 ２．社会的事象を、広い視野から論理的に考察することができる。 【関心・意欲・態度】 ３．自分の考えを明確にし、多様な他者と協働して、問題解決にあたることができる。 ４．不断に自分の人生をデザインすることができる。 【知識・理解・表現】 ５．社会学の専門的知識を修得している。 ６．多様な他者の存在を理解し、自分の考えを他者に伝えることができる。 【技術・技能】 ７．社会調査の技法を理解、活用し、社会的事象を、実証的に分析することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） **１．教育課程編成の考え方** 人間社会学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するため、授業科目を（１）学科科目、（２）学部共通科目で編成する。更に学科科目を①基礎科目、②専門科目、③応用科目、④社会調査科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。 （１）学科科目 ①基礎科目 1 年生から 4 年生にかけて開講され、主に必修科目で構成する。 1 年生に「レポート作成とプレゼンテーション」「社会学への招待 A・B」等の科目を必修科目として配置し、自立した学習の態度や基礎的な学習スキルを育成するとともに、社会学的な考え方を基礎づけている理論・学説史的背景についての学びを通して、2 年生以降に学修する専門分野への興味や関心を喚起する。 続いて、2 年生に「社会学原論 A・B」を必修科目として配置し、社会学理論の基礎を修得させる。

又、2 年生から 3 年生にかけてゼミナール形式の「社会学研究 1A・1B・2A・2B」を必修科目として配置し、発表や他者との議論を通じて、他者へ自身の考えを表現する力とコミュニケーション力を養成する。

最後に、4 年生に「卒業研究」を必修科目として配置し、学科の専門性を深めさせるとともに、4 年間の学修の集大成として卒業論文を完成させる。

②専門科目

多岐にわたる社会学の専門分野のコアとなる科目群である。全て選択科目で構成し、学生の興味や関心に応じた履修を通して、社会学的分析の基礎を修得させる。

③応用科目

社会学の方法論を応用して多様な社会事象の分析を行う科目群である。全て選択科目で構成し、学生の興味や関心に応じた履修を通して、社会学理論の活用法を修得させる。

④社会調査科目

社会調査士資格取得に関する科目で構成する。必修科目の「社会調査法 A・B」で社会調査の基礎を学び、選択科目として配置する統計関連科目の履修を通して、統計分析の手法を修得させる。更に選択科目の「フィールドワーク実習」「アンケート調査実習」「ドキュメンタリー実習」において、学修した知識や方法論を用いた社会調査を実践させ、社会調査士に求められる専門的知識とともに、社会に貢献できる能力を養成する。

（２）学部共通科目

人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。

２． 教育方法の考え方

(1) 実践躬行（アクティブ・ラーニング等）

社会調査実習及び各学年のゼミを中心とする科目群において、アクティブ・ラーニング等を通して、実践的かつ能動的な知識や技術を身に付けながら、学生自身が課題を発見し、その解答を探求する体験的な学修環境を整える。

(2) 分野横断的な学び

各自の希望する進路に即したコースの科目を中心に履修させると同時に、社会学におけるさまざまな研究分野についても広く学ぶ機会を提供することにより、学生の視野を広げる。

(3) 地域社会との連携

地域社会の人々と連携し、協働することを通して、実践的な学修を促進する。

(4) 教育目標の達成度の検証による授業改善

授業の教育目標の達成度を科目毎に適切な方法で把握し、不断の授業改善に努める。

３． 評価方法の考え方

授業科目の最終的な到達目標の達成を支援するため、中間的な到達目標及び公正な成績評価基準を明示した上で、適切なタイミングで受講生にフィードバックを行うとともに、科目毎に適切な方法を用いて到達状況を把握し、評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：高等学校までの教育の成果として、大学における教養教育及び専門教育を受けるために必要な知識・技能を修得している。

・AP2：物事について論理的に考えようとする強い意欲を有している。

・AP3：社会調査の方法に関心をもち、その方法を用いて社会的事象を分析したいという強い意欲を有している。

・AP4：大学での学びを経て自己を確立し、人生について真摯に考えようとする強い意欲を

有している。
・AP5：現実の社会的な問題に関心をもち、さまざまな問題の解決に向けた行動をとるための素養を備え、他者と協働して取り組みたいという強い意欲を有している。
・AP6：論理的に考えようとする素養を備え、自分の考えをまとめる意欲をもち、他者に伝えることができる。
・AP7：多様な他者への関心を有している。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験および志望理由（スカラシップ選抜のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、人文学部人間社会学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、人文学部人間社会学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP5・AP7 に示す能力・資質を評価する際の参考にします。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP2 に示す能力・資質を評価します。

グループディスカッションにより、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP6 に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、人文学部人間社会学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP5・AP7 に示す能力・資質を評価します。

小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP6 に示す能力・資質を評価します。

面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP3・AP4・AP6 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、人文学部人間社会学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP2・AP3・AP5 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　人文学部日本文化学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 日本文化学科は、幅広い教養を身に付け、日本の伝統文化を深く理解し、それを継承発展させ、伝統的側面と比較文化的側面の両面から、世界の中の日本文化の立場と意味を理解し、その独自性と普遍性を積極的に広く発信でき、自らの考えについて的確な日本語運用能力をもって表現できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

【課題発見・解決】

1．体験学習及び演習等での能動的な学修を通じて自ら課題を見つけ、世の中の常識や通説を鵜呑みにすることなく自らの力でそれを解決することができる。

【思考・判断】

2．日本の長い歴史を見通す長期的な展望と、文学・歴史・言語・視覚文化などの諸分野にわたる幅広い見識を身に付け、大局的見地に立って論理的にかつ柔軟に思考することができる。

【関心・意欲・態度】

3．身近な出来事から抽象的な問題まで日本文化に関する何事にも興味を持ち、常に自分の目で確かめようとする旺盛な探究心を有する。

【知識・理解・表現】

4．日本文化に関する知識を意欲的に吸収した上で、日本語の読解と表現の鍛錬を通じて言語感覚を磨き、多様な価値観を有する人々にも自らの考えを正確に伝えることができる。

【技術・技能】

5．日本文化に関する広範な知識を基に、日本文化の諸特徴を的確に分析することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

1．教育課程編成の考え方

日本文化学科の授業科目は（1）学科科目、（2）学部共通科目で構成される。学科科目は①基本科目群、②専門科目群に分けられ、それぞれの科目群を履修し、体系的・総合的に日本文化を学ぶことにより、ディプロマ・ポリシーを達成し人材を養成する。

（1）学科科目

①基本科目群

基本科目群の多くは必修科目であり、1年生から4年生にかけて履修する。

1年生で「日本語レベルアップ1・2」「古文入門」「漢文入門」で基本的な日本語の技能を高め、「日本文化体験」等で日本文化に関する基本的知識を獲得する。

2年生で「古典文化基礎演習1・2」「近現代文化基礎演習1・2」、3年生で「日本文化演習1・2」の演習科目を必修科目として履修し、日本文化の専門知識を得ると共に独自の研究を行う技能を養うことにより、4年生で履修する「卒研演習」につなげ、卒業論文を執筆する能力を獲得する。

日本語運用能力を磨いてコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を高め、日本文化を深く理解し国内外の多方面に発信できる人材を養成する。

②専門科目群

専門科目群は文学、歴史、日本語学、視覚文化、芸能・伝統芸能、編集、博物館学に関する選択科目から構成される。1年生配当科目として「日本文学概論」「歴史入門A・B」等の入門的な科目、2年生・3年生配当科目として「近代文学」「映像芸術論」「古文書学」「江戸文化論」等のより専門的な知識を得るための科目がある。

（2）学部共通科目

人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。

2．教育方法の考え方

（1）実践躬行（アクティブ・ラーニングなど）

日本文化の体験や古典・近現代文学の精読を通じて学生が実践的に日本文化を学び、自主的に研究課題を発見し研究できる能力を養うための学修環境を整える。

（２）分野横断的な学び

学部共通科目や全学共通科目を通じて、日本文化以外の様々な専門領域の学修を行うことにより、学際的な視点を養う機会を提供する。

（３）地域社会との連携

「地域文化研究」などの科目や演習科目においてフィールドワークを行い、地域社会との連携を通じて、学内だけでは学ぶことのできない実践的な学修を促進する。

（４）教育目標の達成度の検証による授業改善

授業の最終的な教育目標を達成するための要件をシラバスに示し、各回の授業内容がそれらの要件を満たすかどうかを授業担当者が検証することにより、不断の授業改善に努める。

（５）カリキュラムの体系性の検証

学科の教育課程が体系化されているか、又それが教育目標の達成に有効であるかどうかを、カリキュラムマップ等を活用して検証する。

３．評価方法の考え方

（１）授業の最終的及び中間的到達目標の明示

達成度が評価される科目においては、授業の到達目標までの行程に複数の中間的到達目標（以下「チェックポイント」と言う）を設定し、それを受講生に明示することで公正な成績評価の基準を示す。

（２）チェックポイントのフィードバック

本評価方法が適合する科目では、チェックポイントの到達度を受講生にフィードバックすることによって、到達目標の達成をより具体的に支援する。

（３）チェックポイントの測定による成績評価

達成度が評価される科目では、チェックポイントの測定によって到達目標の達成度合を判断し、より客観的かつ公正な成績評価を行うことに努める。それ以外の科目でも、各授業担当者が客観的かつ公正な成績評価を行うことに努める。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：日本の言語や文学、歴史、芸術についての基本的な知識を有している。

・AP2：日本文化の事象を多面的かつ論理的に考察することができ、その考えを的確に表現し、伝えることができる。

・AP3：国内外を問わず、文学や言語、芸術等の様々な社会的文化現象に興味があり、みずから文化に触れる能動性を有している。

・AP4：積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験および志望理由（スカラシップ選抜のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、人文学部日本文化学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、人文学部日本文化学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

面接により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、人文学部日本文化学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

課題文要約により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

面接により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、人文学部日本文化学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　人文学部福祉実践学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 福祉実践学科は、幅広い教養と福祉分野の素養を基礎とし、ソーシャルワークの専門性を備えた実践力のある専門職と、福祉の視点と技術を活用できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 １．多様な実践の場で自ら地域社会における福祉的課題を発見し、それを解決することができる。 【思考・判断】 ２．社会福祉の視点をもとに、社会的倫理及び国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得している。 ３．福祉専門職あるいは福祉を学んだ人材として、誰もが住みやすい地域社会づくりに関するニーズの着眼力を修得している。 【関心・意欲・態度】 ４．学生同士並びに教職員、当事者、福祉専門職、企業職員、地域住民との人格接触を伴う学修を通じ、自己を律すると共に自己を確立している。 ５．自らの目標を明確に定め、福祉専門職あるいは福祉を学んだ人材として、社会に貢献することができる。 【知識・理解・表現】 ６．多様な価値観を受け入れることができる福祉を学んだ人材に相応しい幅広い教養を修めている。 ７．体験的な学びを通じて、福祉分野の知識・技能を能動的に修得している。 【技術・技能】 ８．国内外の社会に貢献しうる、多様なコミュニケーション能力及び、ネットワーク形成や問題解決に関わる技術・技能を修得している。 ９．社会福祉学を学んだ人材として求められる基本的な技術・技能を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

１．教育課程編成の考え方

福祉実践学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を（１）学科科目、（２）学部共通科目で編成する。更に学科科目を①必修科目、②基本科目、③社会福祉専門科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

（１）学科科目

①必修科目

1 年生から 4 年生にかけて開講される必修科目で構成する。

1 年生に「社会福祉入門」「地域ニーズ開発」「社会福祉の原理と政策１」「ソーシャルワークの理論と方法１」、また 2 年生に「ソーシャルワークの理論と方法 2」を配置し、入門的な学びから専門的学びへの橋渡しを行う。3 年生に「専門演習１（基礎）」「専門演習２（応用）」等を配置し、自立した学修の態度や方法を学ぶと共に、自らのうちに社会の様々な分野への興味や関心を喚起する。

更に４年生に「卒業研究演習 1」「卒業研究演習 2」「卒業研究」を配置し、学科の専門性を深めさせると共に、4 年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。

②基本科目

1 年生から 3 年生にかけて開講される選択科目で構成する。

1 年生に「社会福祉の原理と政策２」「子ども家庭福祉」「精神保健福祉制度論」「高齢者ケア論」「福祉用具」等の実践的かつ学際的な科目を配置することで、積極的に福祉的な課題を発見し、それを解決する態度や方法について学ぶ。

2 年生に「多摩地域福祉論」等の地域に立脚した科目を配置し、「マイノリティ論」「福祉英語１」等で地域と世界のつながりを理解し、物事をミクロからマクロまで含む多面的な視野で把握する判断力を養う。又、「実践手話」「障害学１」等の科目も配置し、ノンバーバルなものも含む表現力とコミュニケーション力を高めることで、国内外の社会において自らの考えを発信する力を養う。

更に、3 年生の「多文化ソーシャルワーク論」「現代の精神保健の課題と支援」等を通して実践力のある福祉専門職になるための素養を身に付け、「福祉インターンシップ１・２」等のキャリア科目を全学共通キャリア形成科目と連動させることで、福祉の視点と技術を活用できる人材としての将来ビジョンを具体化する。

③社会福祉専門科目

主に２年生から４年生にかけて開講され、ソーシャルワークに関する専門性を高めるための、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目で構成する。

特に、「ソーシャルワーク実習指導１」「同２」「同 3」「ソーシャルワーク実習」「スクール（学校）ソーシャルワーク実習」等の科目において、ソーシャルワークに必要な思想・理念・価値、特別な技術・技能を修得することによって、福祉職業人・福祉社会人として社会に貢献する能力を身に付ける。

（２）学部共通科目

人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。

２．教育方法の考え方

（１）自発的な学修態度を促すために、幅広く知識・技術の修得・体験の機会を提供し、知識と実践の結びつきの強化を図る。

（２）社会の事象に着目し、自ら行動を起こせるソーシャルワークの専門性を備えた実践力のある専門職と、福祉の視点と技術を活用できる人材を養成するために、学生の希望する卒業後の進路に基づいて、選択科目である基本科目、社会福祉専門科目は、履修指導を徹底し、体系的な履修を促す。

３．評価方法の考え方

（１）知識や技術の理解や修得に係る科目については、各科目の関連するディプロマ・ポリシーの到達目標に基づき評価を行う。

（２）体験的・実践的な科目については、レポートや面接等により学生それぞれの理解の深まりについて把握し、評価会議等を行い適切かつ公正に評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：高等学校までの教育において幅広く学び、教養教育及び専門教育を受けるために必要な基本的な知識、生活者としての社会常識、情報検索などの社会生活に関する基礎的な技能・技術を備えている。

・AP2：社会の課題や問題に対して、社会福祉の視点から論理的に考えるための素養を備え、それを口頭及び文章で表現することができる。

・AP3：コミュニケーション能力を有し、他者と協力して社会に貢献したいという強い意欲や態度を持っている。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験および志望理由（スカラシップ選抜のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、人文学部福祉実践学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、人文学部福祉実践学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP3 に示す能力・資質を評価する際の参考にします。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP3 に示す能力・資質を評価するさいの参考にします。

面接試験により、「学力の三要素」のうち「「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、人文学部福祉実践学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP3 に示す能力・資質を評価する際の参考にします。

小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

面接により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、人文学部福祉実践学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　経済学部経済学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 経済学部は、建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を実現するため、グローバル社会を視野に入れて、経済の専門知識、問題解決のための教養とコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。本学部の目標は、企業活動を通じ社会に貢献できる、地域の活性化・発展に貢献できる、社会生活に関わる現場で活躍できる等、社会の多様なニーズに応えうると共に、それに必要な情熱と人間味を備えている人材を輩出することにある。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 １．経済学および法学・商学・会計学の知識を用いて、経済社会の諸問題を分析し、解決策を提案することができる。 ２．地域の経済社会的な課題を理解した上で、解決するための実践的な取り組みができる。 【思考・判断】 ３．経済社会の諸問題について、分野横断的な教養をもとに考察することができる。 ４．経済社会の諸問題を世界的視野と歴史的視点で捉えることができる。 【関心・意欲・態度】 ５．所属する組織や社会における自らの役割と任務を認識し、主体的にこれらに貢献する態度を身につけている。また、他者の意見を尊重することができる。 【知識・理解・表現】 ６．経済学・法学・商学・会計学の基礎知識及びビジネスの実践的な知識を修得している。 ７．国内外で、文書又は口頭により、自らの考えを論理的かつ正確に伝えることができる。 【技術・技能】 ８．経済社会の動向を数量的手法を用いて説明することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） **１．教育課程編成の考え方** 経済学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を（１）必修科目、（２）選択必修科目、（３）選択科目、（４）キャリア選択科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。 （１）必修科目 初年次から４年次にかけて開講される必修科目で構成する。 初年次に「データ分析基礎」「ライティング基礎」等を配置し、経済社会を分析するために必要となる論理的思考力の基礎を養成する。 又、２年次に「地域参画ワークショップ」３年次にゼミナール科目「専門演習 1A/1B」を配置し、経済社会を分析するために必要な思考力や表現力、コミュニケーション力、及び経済社会の諸問題を多角的な視野から能動的に発見して、それらを解決する能力と態度を養成する。 更に、４年次にゼミナール科目「専門演習 2A/2B」「卒業研究」を配置し、４年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。 （２）選択必修科目 ２年次に開講される「ミクロ経済学」「マクロ経済学」のいずれかを選択必修科目として配置し、経済社会の諸問題に対するグローカルな視点での洞察力や分析力を養成する。 （３）選択科目 初年次から３年次にかけて開講される選択科目で構成する。

初年次に「法律学概論１・２」２年次に「工業簿記１・２」３年次に「マーケティング１・２」等の科目を配置し、経済学に加えて法学・商学・会計学の知識とスキルを用いて、経済社会の諸問題を発見し、それらを解決する能力を養成する。

（４）キャリア選択科目

初年次から３年次にかけて開講される選択科目で構成する。

初年次に「キャリアスキル特講１・２」等を配置し、経済社会に貢献する専門的な知識を持つ社会人を養成する。

又、２年次から３年次にかけて「キャリアスキル１～６」等を配置し、社会人として経済社会で果たす役割を自覚させ、それを実現するための必要な能力を養成する。

２．教育方法の考え方

(1) 実践躬行

経済社会の諸問題を多角的な視野から能動的に発見して、それらの解決方法を探求する学修機会を提供する。

(2) 社会科学分野の横断的な学び

経済学に加えて法学・商学・会計学など、社会科学分野における幅広い視点に基づいた問題解決能力を養うための学修機会を提供する。

(3) 地域社会との連携

地域の経済社会で活動する人々との連携を通じて、専門教育での学びと経済社会とのつながりを理解できる実践的な学修機会を提供する。

(4) 最終到達目標の構成要件の検証による授業改善

授業が科目の最終到達目標の構成要件を十分満たす内容になっているかを教授者自らが検証しながら授業改善に努める。

(5) カリキュラムの体系性の検証

授業の体系をカリキュラムマップ等を活用して提示する。

３．評価方法の考え方

(1) 最終到達目標の構成要件の明示

科目の教育目標に適合した評価方法を採用するために、科目ごとに最終到達目標の構成要件をシラバスに明示する。

(2) 最終到達目標の構成要件を基準とした成績評価

成績評価は科目の最終到達目標の構成要件について行い、公正な成績評価の基準を示すことに努める。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：高等学校の主要教科について基礎的な知識や技能を身に付けている。

・AP2：知識や情報を用いて問題を解決するための方法を自ら考え、他者に伝えることができる素養を備えている。

・AP3：主体的に勉学に励む意思を有している。

・AP4：自己を成長させ他者と協力して社会に貢献するという意思を有している。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験、志望理由（スカラシップ選抜のみ）および面接試験（一般選抜Ⅲ期のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、経済学部経済学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、経済学部経済学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。
調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP3 に示す能力・資質を評価します。
面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

3．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、経済学部経済学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。
エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。
小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2 に示す能力・資質を評価します。
簿記検定・数学技能検定・統計検定（いずれも所持者のみ）により「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」、「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。
面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

4．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、高校で実際に取り組んだ「学びの探究」における成果をポスター発表等の形式で報告してもらいます。その報告内容及び成果物について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　情報学部情報学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 情報学部は、社会の発展や情報技術の進化に柔軟に対応できる能力と、情報学に関わる基礎知識や専門知識を有し、その基盤分野及び応用利用分野で幅広く活躍し、倫理観をもって社会に貢献できる以下の人材を育成する。 1．計算機/情報システムについての知識を有し、それらを構築・管理・保守する技術・技能を身に付けた人材 2．統計学・数理科学を中心とした文理を問わない周辺領域についての知識及びそれらを探求する姿勢・態度を有する人材 3．各分野に対応可能な実用的プログラミング能力を有し、活用することで課題解決できる人材 4．幅広い教養を身に付け、社会の変化に対応した情報の活用を提案・具現化することができる人材
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 1．情報の柔軟な運用や分析、社会的技術的な課題への対応・対策等のスキルを有し、活用することができる。 【思考・判断】 2．社会や経済活動に関する周辺知識を有し、科学的思考により情報を多面的に捉えることができる。 【関心・意欲・態度】

３．多様な人間や考え方から成る文化や習慣、さらに自己を理解した上で、倫理観を持って能動的に行動・協調・協働することにより、情報を核とした社会の発展に貢献できる。

【知識・理解・表現】

４．情報を扱う人間社会や、システムを構築し活用するための技術・制度・組織を理解している。

【技術・技能】

５．情報一般やコンピュータで処理される情報の原理を理解した上で、情報を扱う機械及び機構を設計し、実現するための技術を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

１．教育課程編成の考え方

情報学がメタサイエンスであるという観点から、特に幅広い応用・利活用分野に対応するため、広範囲に渡る情報学のうち核となる知識・技能の獲得ができるよう、学科科目を基礎科目、基幹科目、発展科目、キャリア形成・技能養成科目、ＰＢＬ型科目、研究実践科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

（１）汎用的技能の修得

学部の初年次教育として情報学への興味関心を促す科目を開設し、自律的学修態度を涵養する。更に実験科目やプロジェクト実践科目を適切な学年に配置し、コミュニケーション力や多様な人々との協働力を身に付けられるようにする。

（２）社会や諸分野への応用・利活用を目指した学び

社会的価値の創造を念頭に置いた情報通信技術の応用・利活用を知るために、幅広い分野に興味関心を持つよう意図した科目を１年生から開設し、又、先端的な技術を知るための専門科目を２年生以降に配置する。

（３）プログラミング能力を基盤とした問題解決

問題解決のための基盤としてのプログラミング能力の育成を目指し、１年生からプログラミングの基礎・演習科目を配置し、2 年生以降の実験科目やプロジェクト実践科目において身に付けたプログラミング能力を活用する実習を実施する。

又、将来の活用先を見据え、適切なプログラミング言語・手法を選択して修得できるように科目やクラスを設置する。

（４）数理科学・統計学に裏打ちされた情報学の体系的知識の獲得

情報学は数学及び統計学と特に深く関連していることから、これらの基礎を修得できるように、体系的に数学・統計学関連科目を設置する。

（５）「情報の扱い」に対する能力の育成

飛躍的に増加するデータを情報として適切に活用し社会に価値を創造できるようにするため、データの収集、加工、蓄積、分析、変換、活用、表現、伝達といった技術を修得し、いわゆる「情報の扱い」の基礎から応用までを学べるよう専門科目を体系的に整備する。

（６）情報の原理を理解し、情報を扱う機械や機構を設計・実現する技術の修得

情報学の基礎として情報の原理を理解した上で、コンピュータを始めとした情報を扱う機械・機器やシステムの設計ができ、それらを実現・構築する技術を修得できるよう、体系性・順序性を考えて必要な科目を配置する。

（７） 高度化された情報通信社会における先導者としての素養の獲得

高度化された情報通信社会において先導者としての役割が果たせるようになるために、AI や IoT、センシングといった理工学分野を中心とした技術の修得ができるよう、さらに倫理観を持った上で、社会や経済活動、人間活動を取り巻く環境についての理解が深められるよう、学科科目を設置する。

２．教育方法の考え方

(1)　主体的な学び

主体的・能動的な学びを自立して行えるよう、アクティブラーニングの手法を専門科目でも取り入れる。

(2)　プログラミングによる問題解決

全ての学生にプログラミングの技能を身に付けさせるために、修得レベルに応じた学修ができるよう能力別クラスを設定する。問題解決を実践的に学べるよう、プロジェクト学習を取り入れる。

(3)　実験・演習による体験的な学び

実験科目や演習科目における実体験を通じ、知識や技能の理解・定着を深めさせる。更に、実験や演習で実施する問題解決の過程や結果を説明する機会や場を設けることにより、理解度を確認するとともに、その深化を促進させる。

(4)　協働的な学習や体験

コミュニケーション力をはじめとする情報通信技術の関わる業界において必要とされる汎用的能力の基礎を身に付けるため、適宜グループワークを実施する。グループワークでの活動を通じ、多様な特性を持つ人々との協働や、その中での様々な役割を経験させる。

(5)　履修モデルの提示と指導

人材に対する産業界のニーズに応え、又学生の目指す自己実現の在り方にも配慮し、4 年間に渡って効果的な履修ができるよう履修モデルを提示する。その上で、学生個々の特性を評価し、適切な履修モデルの選択ができるよう個別指導を行う。又、関連する全学共通科目の履修を促す。

3.　評価方法の考え方

(1)　到達目標の明示

全ての科目で、学修体系や履修モデルにおける位置付けを意識した到達目標を明示し、自己評価も客観的にできるよう到達度の基準を示す。

(2)　主体的な学びの成果を評価するためのルーブリック等の活用

主体的な学びの成果を公平に評価できるよう、特に定性的な評価が要求される課題・科目については、ルーブリック等を積極的に活用する。

(3)　レポートによる評価

問題を発見した上でモデル化し、適切なアルゴリズムや解法を選択できているかを確認するため、実験科目やプロジェクト実践科目においてレポートによる評価を実施する。

(4)　卒業研究の評価

卒業研究の実施及び卒業論文の作成を通じて、(a) 体系的な知識・技能の習得ができたこと、及び (b) その知識・技能を生かして問題発見・解決ができること、を評価・確認する。又、４年間の学修の成果を総合的に計測するため、複数教員による客観的総括評価をルーブリック等を活用して行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：入学後の修学に必要な基礎学力としての高等学校までの諸科目の知識および文章理解力を有している人。

・AP2：課題解決のために情報機器を適切に選択する素養を備える人、又それらを活用するための基本的な技術や技能を有している人。

・AP3：与えられた課題や問題の解決に向けて「論理的思考」と「柔軟な判断」ができる人、又自身の思考や判断を適切に表現し伝えられる人。

・AP4：複数の代替案から客観的に適切な選択肢を選ぶことができ、又その根拠を論理的に示すことができる人。

・AP5：身近な課題を見付ける事ができ、その解決策を主体的に考える人。

・AP6：情報学並びに周辺諸分野への深い関心を持ち、社会に積極的に貢献しようとする人。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験および志望理由（スカラシップ選抜のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、情報学部情報学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

2．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、情報学部情報学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP5・AP6 に示す能力・資質を評価します。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP2 に示す能力・資質を評価します。

面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP4・AP5・AP6 に示す能力・資質を評価します。

3．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、情報学部情報学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP5・AP6 に示す能力・資質を評価します。

適性テストにより、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP4 に示す能力・資質を評価します。

面接により、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP3・AP4・AP5・AP6 に示す能力・資質を評価します。

4．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、情報学部情報学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1～AP6 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　教育学部教育学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 教育学部は、人間に対する深い洞察力と共感的態度を養い、学校教育及び保育・幼児教育についての専門的な知識と技能並びに幅広い教養を身に付けた教員、保育士及び教育・福祉に創造的に関わる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 1．課題発見・解決の能力が身に付く。 【思考・判断】 2．思考力・判断力が身に付く。 【関心・意欲・態度】 3．関心・意欲が育まれ、自ら学ぶ態度が身に付く。

【知識・理解・表現】
4．幅広い教養・専門知識を修得・理解し、表現することができる。
【技術・技能】
5．体験を通して、技術・技能が身に付く。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

1．教育課程編成の考え方

教育学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを踏まえ、「小学校教員コース」「教科専門コース（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・英語）」「特別支援教員コース」「子ども臨床コース」の 11　コースにおいて、教員免許及び保育士資格を取得し、豊かな教養と専門的な知識や実践的指導力を備え教育者・保育者等として活躍できる人間を育成するための教育課程を体系的に編成する。教育課程は、（1）学科科目、（2）学部共通科目で構成し、更に学科科目は①必修科目、②選択科目に区分する。

（1）学科科目

①必修科目

1・2年生に、教育者・保育者に向けて子どもや教育に関する理論や制度等を学ぶ基礎的な科目を配置する。又、全学年を通して〈手塩にかける教育〉を実現する少人数クラスとして「教育学基礎演習」（1・2年生）、「教育実践ゼミ」（3・4年生）を配置し、討論や考察、追究等を通して教育に対する深い理解や実践力を身に付けさせる。4年間の学びの集大成として「卒業研究」を完成させる。

②選択科目

幅広い知識や実践的指導力を備えた教育者・保育者を育成できるよう、幼稚園、小学校、中・高等学校の各教科、特別支援学校の一種免許状、保育士資格の取得に必要な教育の基礎的理解に関する科目をはじめ、教科及び教科の指導法に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、領域及び保育内容の指導法に関する科目等を適切かつ体系的に配置する。又、2年生に「教育インターンシップ」を配置し、各科目における理論の学修と学校現場における実践を往還させながら教育者としての視点や実践力を体験的に養う。

（2）学部共通科目

教育者・保育者としての必要な知識や実践的指導力とともに、高次の教養を身に付けさせるため、思想、言語、歴史、文化、社会、情報等に関する科目を選択科目として配置する。

2．教育方法の考え方

学生が教育者・保育者となるために必要な資質・能力を身に付け高めることができるよう、科目の特質を踏まえ、次のような指導方法の工夫に取り組む。

（1）学生の主体的・対話的・深い学びが成り立つよう、将来の進路との関わりを視野に置きつつ、学修への見通しをもたせたり振り返ったりすること、学修の対象と双方向で関わり追究を深めること、知識を関連付けてより本質的な理解に達すること、問題を発見し解決に取り組むことなどを重視する。

（2）理論と実践との往還、大学での学修と現実社会との相互のつながりを重視する。

（3）学生の学修の状況や成績評価を踏まえて、指導の計画や方法の工夫改善に努める。

3．評価方法の考え方

（1）シラバスにおいて各科目の教育目標を明示するとともに、学生の主体的、計画的な

学修に資するよう到達目標／行動目標を併せて示す。
（２）各科目の教育目標に準拠した成績評価を行う。その際、科目の特質に即して成績評価の規準を明確にするよう努める。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
・AP1：教育活動をするうえで必要な技能についての基礎的な資質・能力を有している人。
・AP2：学校教育又は保育・幼児教育の主体的な学習を経て自己を確立し、多様な人々と適切なコミュニケーションをとることができる人。
・AP3：教育や関連する領域において適切に思考・判断する基礎的な資質・能力を有している人。
・AP4：保育や教育に関心をもち、真摯に学習する態度とその分野の仕事をしたいと意欲を有している人。
・AP5：学校教育又は保育・幼児教育を学習する基礎的学力や理解能力を有している人。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験および志望理由（スカラシップ選抜のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、教育学部教育学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、教育学部教育学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP4 に示す能力・資質を評価します。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP3・AP5 に示す能力・資質を評価します。

口頭試問により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、教育学部教育学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP4 に示す能力・資質を評価します。

小論文等（コースにより異なる）により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

面接により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、教育学部教育学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価

します。

学部等名　経営学部経営学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 経営学部では、経営の現実や現象を正しく認識し、問題解決の能力、経営改善、新しい発展の方向を提示し、企業や組織、そして事業の生誕・発展・持続・変革に係るあらゆるプロセスに対応できる人材を育成することを目指す。①実践性、②時代や環境への適応、③学問的基盤と科学的根拠を基本に、今後の日本社会において必要とされるローカルな視点とグローバルな視点を兼ね備えた人材を育成する。同時に、高い教養と常識、経営の専門知識と技能を持ち、広い視野と協調性に富み、企業・その他組織体並びに社会に貢献できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 １．経営にかかわる諸現象について実践躬行を通じて、統合的学習を前提とした課題を発見し解決できる。 【思考・判断】 ２．経営現象に関して深く考え熟慮するとともに、グローバルな視点を考慮し状況や時代に応じて変容する最適な解決策や対応について適切で妥当な判断ができる。 【関心・意欲・態度】 ３．世の中で起こる経営に関する諸問題や現象について広く関心を持ち、自ら問題の所在を明確にできる。 ４．経営上の諸問題の問題解決や背後の要因の究明に積極的に取り組む意欲を継続できる。 ５．組織の中で協働しながら社会や倫理、環境といった視点から、ビジネスの実践にあたることができる。 【知識・理解・表現】 ６．経営に関する学問的知識と実践的知識を身に付け、複雑で多様化する経営上の現象や問題について適切で妥当な理解ができる。また、これらを言語、図式、数値等によって表現できる。 ７．経営上の現象や問題について、現状の把握、分析、原因究明や対策提案の提示といった一連の過程について、言語、図式、数値等によって表現できる。 【技術・技能】 ８．経営に関連する社会的に優位な資格や技能を有し社会人としての基礎的な素養を身に付けている。 ９．経営現象を見極め分析し考察と妥当な解決案を導き出せる技能を身に付け、それを遂行できる技術・技能を利活用できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

１．教育課程編成の考え方

経営学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を（１）基幹科目、（２）学科専門分野科目、（３）キャリア開発・資格関連科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

（１）基幹科目

1 年生から4 年生にかけて開講される科目で構成され、すべてのコースの学生が受講する。1年生に「経営基礎１・２」、２年生に「経営基礎３・４」を中心に必修科目として配置し、経営学の基礎を修得させる。又、３年生に「ゼミナール１・２」、４年生に「ゼミナール３・４」「卒業研究」を必修科目として配置し、専門性を深めさせるとともに、４年間の学びの集大成として卒業研究を完成させる。

（２）学科専門分野科目

経営学部の基礎理論を基に、実践的な体験学習の機会を多く設け、①地域ブランドマネジメントコース、②観光・ブライダルコース、③事業承継・イノベーターコース、④金融・会計プロフェッションコース、⑤戦略的キャリアデザインコース、⑥スポーツ・エンターテインメントビジネスコースの各コースで、経営管理、マーケティング、会計学の各分野を横断的に学修させる。

①地域ブランドマネジメントコース

「流通論」「地域ブランド論」「消費者行動論」等のマーケティング分野の科目の履修を中心に、地域に立脚した学習を通して、基礎（事例と理論）と応用（フィールドワークと実践）の双方から地域と世界のつながりを理解し、物事をグローバルに把握する判断力を育成する。

②観光・ブライダルコース

「観光マーケティング論」「ブライダル・マーケティング論」「ホスピタリティ・マネジメント論」等の観光・ブライダル・ホスピタリティを中心とした分野の学習を中心に、経営管理・マーケティング・会計の学問分野を基礎にしつつ、理論と実務の両面から学び、サービス業で活躍するための知識、技能を修得する。

③事業承継・イノベーターコース

「人的資源管理論」「商品開発論」「プロジェクトマネジメント論」「ビジネスプランニング」「事業承継・起業と会計」等、事業承継やイノベーターを目指す人に必要な経営管理・マーケティング・会計のすべての分野を横断的に修得する。実務的かつ学際的な学びによって、多角的な視野から積極的に課題を発見し、商品や事業を通した新しい価値の創出を目指す。

④金融・会計プロフェッションコース

「基礎財務会計」「業績評価会計」「経営分析」等の金融及び会計学分野の科目を中心に履修することによって、金融や会計の知識と技法を修得させ、金融機関や会計系専門職（公認会計士や税理士など）での活躍に必要な資質を涵養する。

⑤戦略的キャリアデザインコース

「企業論」「経営戦略論」等の経営管理分野の科目及びキャリア開発関連科目の履修を中心に、経営戦略や組織の中の人の行動と心に関する理論とスキルを修得する。そして、実践的授業を通して、日本社会や幅広い産業に貢献する人材の育成を目指す。

⑥スポーツ・エンターテインメントビジネスコース

「スポーツビジネス論」「スポーツ産業論」「スポーツマーケティング論」「エンターテインメントビジネス論」「ビジネス映像制作論」など、これらスポーツやエンターテインメント業界を目指すために必要な実務的な知識や一般的なビジネスに必要な経営学を学び、知識、技能を修得する。

（３）キャリア開発・資格関連科目

２年生から３年生にかけて開講される選択科目で構成する。２年生に「キャリア開

発１・２」、３年生に「キャリア開発３・４」を配置し、又、全学共通キャリア形成科目と相互に補完させて、社会的に自立した自己の将来像について考える機会を提供し、社会において果たすべき役割を自覚させる。あわせて、経営やキャリア開発に関連する資格取得を目指す科目を設置し、知識と技能の統合をはかっている。

２．教育方法の考え方

（１）実践躬行（アクティブ・ラーニング等）

アクティブ・ラーニング等を用いた科目を通じて、実践的かつ能動的な知識や技術を身に付けながら、学生自身が課題を発見し、解答を探求する体験的な学修環境を整える。それ以外の科目でも可能な限り学修者中心の学びの機会を提供することに努める。

（２）地域社会との連携

地域社会の様々な分野の人々との連携を通じて、学内だけでは学ぶことのできない実践的な学修を促進する。

（３）コース別授業カリキュラムの展開

卒業後の進路意向に基づき、入学後に、①地域ブランドマネジメント、②観光・ブライダル、③事業承継・イノベーター、④金融・会計プロフェッション、⑤戦略的キャリアデザイン、⑥スポーツ・エンターテインメントビジネスの６ コースから１つを選択させ、体系的に履修させる。

３．評価方法の考え方

（１） 到達目標と評価方法の明示

コースごとに履修モデルを提示し、科目ごとに到達目標と評価方法を明示する。これにより、自己評価も客観的にできるよう基準を示す。

（２） 卒業研究の評価

「卒業研究ガイドライン」に基づく卒業研究の作成を通じて、(a)経営に関する専門知識と技能を修得しているか、(b)企業経営に関する問題発見と解決能力を身に付けているか、という視点を中心に総合的に評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：高等学校までの教育の成果として、大学における教養教育及び経営学部経営学科における経営に関する専門教育を受けるために必要な基本的な知識・技能を修得している。

・AP2：多摩地域をはじめ周辺地域や全国に対する実社会の課題や問題に関して、幅広く論理的に考える素養を備え、その考えを自身でまとめ、他者に伝えることができる。

・AP3：経営に関する実践的な学びに能動的に取り組み、様々な課題や問題に対して自ら主体的に考え、解決に向けた行動を取るための素養を備えている。

・AP4：大学での学びを経て自己を確立し、他者と協力して社会に貢献したいという強い意欲を有していて、かつ、以下のような経営学部の６ つのコース・カリキュラムに対応した興味・関心及び意欲を有している。

１．地域をフィールドに商品・サービスに関する企画・デザイン・マネジメントに興味・関心を有し、多様な主体と新しい価値を共創する意欲のある人。

２．観光をはじめ、ホスピタリティ、ブライダルビジネスなどサービス業に興味、関心を有し、関連する業界での就業を目指す意欲のある人。

３．企業の事業承継及び商品開発や新規事業開発、起業などの新しい価値の創出について必要な知識を学ぶ意欲のある人。

４．金融及び会計の知識や技法を身につけて、金融機関での活躍や会計系専門職（公認会計士、税理士など）としての活躍を目指す意欲のある人。

５．経営学全般の学習と実践を通じて、実務家としての基礎能力を高め、民間企業及び官公庁・公共サービスの即戦力として活躍する意欲のある人。

６．野球、サッカー、バスケットなどのプロスポーツに興味をもつ人、ｅ スポーツやゲー

ム産業などに興味をもつ人、映画・アニメ、テレビ、インターネットなど映像産業に興味をもち、関連するこれらの業界での就業を目指す意欲のある人。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜では、科目別の学力試験により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、経営学部経営学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

2．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、経営学部経営学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP4 に示す能力・資質を評価します。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1 に示す能力・資質を評価します。

面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

3．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、経営学部経営学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP4 に示す能力・資質を評価します。

小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

面接により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP3・AP4 に示す能力・資質を評価します。

4．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、経営学部経営学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準とし、特に「❷思考力・判断力・表現力等」「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を積極的に評価し、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　デザイン学部デザイン学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 1．デザインの本質の一つである実現可能な「企画」を提案する能力と様々な分野に応用・展開できる能力を身に付けた人材を育成する。 2．培われた説得力のある「表現力」を発揮して、社会に貢献できる基礎能力を身に付けた人材を育成する。 3．あらゆる場面で「企画力」と「表現力」を活かし、社会における自身の責任と価値を見いだすことのできる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
1．目的や条件・制約を活かしつつ、現代社会における新規性と実現性を兼ね備えた企画の骨格を構想することができる。
2．対象への興味と共感をもって深い調査・分析を実施し、多角的な視点から問題点を発見し、課題を設定することができる。
3．優れたデザインの事例を多く知り、それらと自身の考えとを照合して価値や新しさを評価しながら、アイデアを発想することができる。
4．他者との違いを認めながら協働し、スムーズかつ創造的にプロジェクトを推進し、貢献することができる。
5．伝えるべき本質的な事柄を理解しやすく魅力的に発信し、相手に強い印象を与え、行動を促すことができる。
6．目的や条件・制約に即して、メディアやツールを選択・駆使して、提案物を合理的に美しく実現することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

1．教育課程編成の考え方

デザイン学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の考え方に基づいて教育課程を編成する。

デザインを「企画力(分析力・発想力・構想力)」と「表現力(美的実現力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力)」との総合的活動として捉え、専門領域に捉われない実社会で必要な力を実践的な学びを繰り返す中で身に付けさせる。そのために、学科科目を（1）企画表現演習科目、（2）理論科目、（3）技術実習科目、（4）専門演習科目、（5）キャリア科目、（6）卒業研究で構成し、科目間の連携を重視する。

(1) 企画表現演習科目

カリキュラムの中核となる一連の必修科目「企画表現１～６」を配置し、課題や問題を自ら発見・解決する姿勢と方法を実践的に学ばせ、実社会で必要とされる企画力・表現力を養成する。

(2) 理論科目

1・2 年生を中心とする早い段階で、デザインをする上で前提となる知識と教養を修得させ、専門教育に臨むための素養を整える。さらに、３・4 年生では、優れたデザインの事例や先進的取り組みに触れる機会を設け、企画力・表現力の土台となる知性・批評性を培う。

(3) 技術実習科目

1 年生を中心とする早い段階で、デザインをする上で前提となる表現技術、加工技術を修得させ、提案物を合理的・美的に実現するための基礎力を身に付けさせる。

(4) 専門演習科目

2・3 年生を中心とする中期の段階で、様々なデザインの専門領域から選択し、専門的な知識・技術・方法について実践的・横断的に学修する機会を設ける。その中で、自らの興味・関心の方向性や適正を発見させるとともに、専門領域を超えて必要となる汎用的な知識・技能の必要性を認識させる。

(5) キャリア科目

様々なデザインの領域で活躍する社会人や、企業の現場に触れる機会、及び、自らの適性と学びを結びつけ進路を検討する機会を設けることで、社会に対する関心を深め、社会貢献につながる自らの目標を意識化させる。

(6) 卒業研究

身に付けてきた企画力・表現力を総合的に発揮し、身の回りの生活や地域・社会の抱える課題や問題を調査・分析した上で、それらを解決する具体的な企画提案にまとめ発表させる。

２．教育方法の考え方

デザイン学科では、学生の学修を実践的かつ能動的なものにするために、(1) 実践躬行する機会の提供、(2) 地域・社会との連携、(3) 検証による授業改善、の考え方に基づき教育方法を構築する。

(1) 実践躬行する機会の提供

企画表現演習科目を中心に、アクティブ・ラーニング等の実践的かつ能動的な学修方法によって、学生が自ら課題や問題を発見し、それを解決する方策を探究する機会を提供する。そうしたプロセスを様々なテーマのもとで繰り返し経験させる。

(2) 地域・社会との連携

地域・社会と直接関わる産学公連携によるプロジェクト等を通じて、学内だけでは完結しない実践的な学修を促進すると共に、実社会への興味や関心を高め、将来社会人として自らが果たすべき役割を明確にさせる。

(3) 検証による授業改善

授業の教育目標の達成状況を、到達目標と複数の評価規準・基準に沿って検証し、改善に努める。中でも 1 年生の必修科目等については、確実に目標を達成させる。

３．評価方法の考え方

デザイン学科では、公正な評価を伴う学修を促進するために、(1) 授業の目的と到達目標の明示、(2) 評価規準・基準と点数配分の設定、の考え方に基づき学修の評価方法を設定する。

(1) 授業の目的と到達目標の明示

授業の目的を明確に定めた上で、その授業の最終的な到達目標を設定し、それらを学生に明示する。

(2) 評価規準・基準と点数配分の設定

到達目標に応じた評価規準・基準と点数配分を定め、受講態度等も含めて総合的かつ客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：企画し表現するデザインに興味がある人。
・AP2：他の人に何かを伝えることに興味がある人。
・AP3：ものごとを筋道立てて考えることができる人。
・AP4：困難があっても粘り強く取り組むことができる人。
・AP5：他の人と積極的に協力して物事に取り組むことができる人。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験および志望理由（スカラシップ選抜のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、デザイン学部デザイン学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、デザイン学部デザイン学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

口頭試問により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」、「❷思考力・判断力・表現力等」および「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、デザイン学部デザイン学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

口頭試問により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP1・AP2・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、デザイン学部デザイン学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　心理学部心理学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 心理学部では、実践的教養としての心理学に関する専門的知識及び技能をもって社会に貢献できる以下の人材を育成する。 １．人間一般の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身に付けた人材 ２．社会集団の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身に付けた人材 ３．青年期・成人期を対象としたアセスメント及びカウンセリングの理論と技能を身に付けた人材 ４．幼児期・児童期を対象としたアセスメント及び臨床的介入の理論と技能を身に付けた人材
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 １．授業で体験的に修得した方法論や技法を駆使して、問題を発見し、その問題に対処できる。 【思考・判断】 ２．外国語文献の読解も含むグローバルな探究で得られた最新の知見を活用して、個人・集団・地域社会等の現実的な諸問題に対処できる。 【関心・意欲・態度】 ３．科学的・実証的探究の成果としての卒業研究の完成に繋がる４年間の学びを通じて、自ら目標を見出し、その目標を達成するために自律的・計画的に行動することができる。 【知識・理解・表現】 ４．心理学の学びから培われるバランスのとれた人間観に基づいて他者を理解するとともに、社会において他者と適切な関係を結ぶことができる。 ５．科学的探究としての卒業研究を通じて、説明やプレゼンテーションによる相互理解を実現できる。 【技術・技能】 ６．心理学の学びを通じて培われた実践的教養としての論理的思考やコミュニケーションによって、社会の多様な場面での価値創造や相互理解構築に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

１．教育課程編成の考え方

心理学部では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を（１）基礎科目、（２）基幹科目、（３）発展科目、（４）臨床実践科目、（５）キャリア形成科目、（６）研究実践科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

このカリキュラムは、「心理学の専門的な仕事をするために必要な基礎学力と技能とを修得している」ことを保証する公益社団法人日本心理学会の「認定心理士」資格、並びに、その上位資格である「認定心理士（心理調査）」資格に準拠している。

さらにこのカリキュラムは、「公認心理師資格の取得のために学部で修得しておくべき科目」をも網羅しているため、卒業生は大学院に進学するなどして公認心理師の資格取得を目指すことができる。

（１）基礎科目

心理学の全体像および３年生以上の専門的な授業の理解に必要な基礎知識を提供するために、１年生に「心理学概論Ａ」「心理学概論Ｂ」「心理学研究法」および少人数制で実施する「心理学統計法１」「心理学統計法２」、2 年生に少人数制で実施する「心理学実験」「心理的アセスメント」などをすべて必修科目として配置する。

（２）基幹科目

心理学の多様な分野の概要についての学生の理解を達成するために、選択科目を 20 単位以上、１年生・２年生に配置する。

（３）発展科目

学生各自が卒業後の進路計画に従って自ら選択した学びを深めるために、専門科目を①人間科学、②産業・社会、③カウンセリング、④発達支援の 4 分野に区分して 3 年生に選択科目として配置する。また、調査研究に必要な知識の修得を目指す学生のために、心理学研究法の発展科目として、産業・社会分野にも関連の強い「心理学調査法」を選択科目として配置する。

（４）臨床実践科目

臨床の現場における実践能力を修得することを目指す学生のために、「心理演習」「心理実習」等を 3 年生の選択科目として配置する。

（５）キャリア形成科目

心理学部での学びを通じた学生の社会的自立を支援することを目的として、3 年生に「心理学で拓くキャリア」を選択科目として配置する。

（６）研究実践科目

3 年生から 4 年生にかけて「専門演習１A～２B」「卒業研究」を必修科目として配置し、専門的学修の最終成果である、科学的･実証的な卒業研究を完成させる。

２．教育方法の考え方

心理学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの下で学生が修得すべき内容を教育するために、

（１）「知識・技術・技能の修得」、「学生の気づきや成長の援助」等、個別の科目の教育目標と学生が達成すべき具体的目標とをシラバスに掲げる。

（２）それらの目標を達成するのに相応しい教育方法（実習・演習・講義など）を採用して計画的に授業を実施する。

（３）各回の授業における学生の理解度を、授業内課題の達成度やリアクション・ペーパーの記載内容等から把握し、それを踏まえて授業のあり方を随時改善する。

（４）学生による授業アンケートの結果のうち心理学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえた合理的な指摘を参照して、当該科目における教育方法を再検討する。

３．評価方法の考え方

（１）心理学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく個々の科目の教育目標に適合した評価方法を採用する。そのため、科目ごとにその到達目標をその構成要件とともにシラバスに明示し、成績評価はその目標及び構成要件に基づいて行う。例えば、知識・技術・技能の修得を目標とする科目では、それらの定着を問う試験を実施し、学生の気づきや成長を促す科目では、それらを捉えるためのレポート提出を求める。
（２）各科目の教育目標に照らして適切な内容の評価方法、適切な回数の評価機会を設定し、評価方法をシラバスに明示して、学生に当該科目の学修上の力点を周知する。
（３）上記２要件を充たした上で、①各回の授業内容について学生に論述を求める等、授業ごとの達成を成績に反映させること、②授業の進行に伴って、確認テストを行い自己採点させる等、学生が自らの学修の深度を適宜確認できる機会を提供することを通じて、学生の日々の学びの状況を捉えたきめ細かい成績評価を目指す。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
・AP1：国語・数学・英語の基礎学力を備えている人。
・AP2：客観的な事実やデータを基に、ものごとを論理的に考え、判断し、そのプロセスを正確に他者に伝えられる人。
・AP3：心理学の幅広い領域のうち、自己の内面としての「心」にだけでなく、自己と他者や環境との関わりとしての「心」にも関心を向けられる人。
・AP4：実験・検査・調査・統計処理・外国語文献読解など人間を理解するための様々な方法の修得に意欲的に取り組める人。
・AP5：友人や教員と協調して、自ら目標を定め計画的に学びを深めていける人。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験および志望理由（スカラシップ選抜のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、心理学部心理学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、心理学部心理学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1 に示す能力・資質を評価します。

面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を基準として、AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、心理学部心理学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2 に示す能力・資質を評価します。

口頭試問により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、心理学部心理学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　建築学部建築学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

建築学部建築学科は、幅広い教養と建築学に関する専門知識及び実践的な技術を修得することで、時代や環境の変化に対応した安全、健康かつ快適な建築、住宅及び都市空間を創出・提供し、社会に貢献できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

【課題発見・解決】

1．建築学の専門知識に基づき、都市や地域が抱える今日的課題を発見し、その解決案を提案できる。

2．建築学の専門知識を応用して、自ら課題を設定し実証的な手法を用いて研究論文の作成、又は社会的・客観的視点に立脚した建築設計を行うことができる。

【思考・判断】

3．自然科学分野に加え、社会科学・人文科学分野を含めた幅広い教養を用いて、建築を歴史・社会・人間と関連付けて思考することができる。

【関心・意欲・態度】

4．建築に携わる職業人としての社会的役割と責任について理解している。

5．他者との協働作業において、他者の立場や意見を尊重し、チームの成果に貢献することができるコミュニケーション能力を有している。

【知識・理解・表現】

6．建築学に関する幅広い専門知識を身に付けている。

7．自らの成果物に関して、論理的かつ合理的に説明できるプレゼンテーション能力を有している。

【技術・技能】

8．建築における総合的（意匠、計画、環境、構造）な設計を行うことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

1．教育課程編成の考え方

建築学科では、建築学に関する専門知識及び実践的な技術、又、建築デザイン分野、住宅デザイン分野及び建築都市エンジニアリング分野に関する発展的知識の修得を目的に、学科科目を（１）基礎科目、（２）専門基幹科目、（３）専門発展科目に区分する。

（１）基礎科目

建築学に関する導入科目及び建築学の学修上基礎となる数学・物理関連科目を配置する。

（２）専門基幹科目

建築学の専門知識及び技術の修得を目的に、その基幹領域となる「設計・計画」「構

造」「環境・設備」「材料・構法・生産」ごと、体系的に授業科目を配置する。又、「設計製図」関連科目は、1 年次から必修科目として段階的に積み上げ、「卒業研究」へと発展的学修が可能となるように配置する。

（３）専門発展科目

学生が目的に応じて学修することを可能にするため、「建築デザイン」「住宅デザイン」「建築都市エンジニアリング」の区分を設け、各分野の専門性を深める授業科目を配置する。又、建築に携わる職業人として期待される進路やその実現のためのキャリアについて学ぶ「キャリア支援科目」、建築学における学士課程教育の集大成となる「卒業研究」の区分を設け、適切に授業科目を配置する。

２．教育方法の考え方

（１）建築学部建築学科では、講義科目、演習科目及び実験・実習科目を適切に配置する。講義科目は、建築学における広範な専門知識の獲得を目的とする。演習科目は、講義科目で得た専門知識の深化と定着を目的とする。実験・実習科目は、本学が保有する施設・設備の利用を通して体験型の授業を行い、建築学における実践的な技術力の獲得を目的とする。

（２）講義科目、演習科目及び実験・実習科目のいずれの授業形態でもアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を行う。

（３）上記の教育方法を通して、建築に関わる職業人として自立するための自発的な課題発見力と課題解決力、構想力とともに職業意識を涵養する。

３．評価方法の考え方

授業科目ごとのシラバスにおいて定めている教育目標、到達目標、評価方法に基づき、当該基準を満たした学生に単位を授与する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

・AP1：建築学を学ぶ上で必要となる基礎学力を有している人。

・AP2：世の中の様々な環境の変化に関心を持ち、学んだ知識と技能を用いて社会の課題や問題を解決しようとする意志を有している人。

・AP3：社会の課題や問題に対して、正しく、的確な情報を収集し、論理的に考え、自ら判断することができる人。

・AP4：自らの考えを自らの言葉でまとめ、他者に対して、正しく、的確に表現することができる人。

・AP5：積極的に他者と関わり、自分と異なる考えや価値観を尊重しながら、他者と協調的な関係を築こうとする意志を有している人。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験、志望理由（スカラシップ選抜のみ）および面接試験（一般選抜Ⅲ期のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、建築学部建築学科のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準

学校推薦型選抜では、建築学部建築学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1 に示す能力・資質を評価します。

面接試験により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を

持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

3．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、建築学部建築学科で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

適性テスト／小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

面接により、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

4．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、建築学部建築学科が設定する課題について、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う総合的な探究を行います。その成果について、「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。

学部等名　データサイエンス学環
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） データサイエンス学環は、幅広い教養と数理科学・統計学・情報学を基盤とするデータサイエンスの専門知識と実践技術の修得に加え、実社会における活用方法を修得することにより、社会の多様な諸問題に対して、課題発見から課題解決に至る過程のデータを活用し、デジタル社会の基盤を支えるデータに精通し、大量のデータを正しく扱い、新たな価値を創りだせる人材を育成する。 また、社会的課題を解決するための知識や技術を身に付け、今日的課題への対応を含む発展的な知識を涵養するとともに、これらの知識・技術を総合して、データサイエンス力、データエンジニアリング力、ビジネス力の基本的な能力の修得を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）
（概要） 【課題発見・解決】 1．社会の多様な諸問題について、数理・データサイエンス・AI を用いて、解決すべき具体的な課題を抽出・分析し、課題背景を理解した上で解決策を計画的に立案することができる。 【思考・判断】 2．データサイエンスを用いてデータ活用の実践や新たな価値を見いだす知識を備え、地域及び社会に貢献することができる。 3．データサイエンスと情報学分野、理工学分野及び経済学分野との関わりについて、地域的及び地球的・世界的視点に立って観察する知識とそれぞれの諸課題をデータから考察する力を備え、地域及び社会に貢献することができる。 【関心・意欲・態度】 4．データサイエンスが新たな社会の発展の基本であることを認識している。 【知識・理解・表現】 5．データサイエンスに必要な基礎学力とその応用能力を有している。 6．データサイエンスの実社会における活用方法を理解し、他者に伝えることができる。 【技術・技能】 7．実社会に対してデータサイエンスを用いて適用するデータエンジニアリング力と課題

背景を理解し、解決に導くビジネス力を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）

1. 教育課程編成の考え方

データサイエンス学環では、人材養成の目的及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定めるとともに、教育課程を基礎学力及び幅広い教養を培う「全学共通科目」、社会人としての自立できる能力と意欲を養う「全学共通キャリア形成科目」、データサイエンスの専門知識を学ぶ「学科等科目」の 3 区分に大別し、体系的に編成する。

（1）連係協力学部と連係した教育課程の実現

データサイエンス学環では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するため、2021（令和 3）年 4 月 15 日に一般社団法人情報処理学会が策定した「データサイエンス・カリキュラム標準（専門教育レベル）」に依拠しつつ、学部等連係課程としての特色を活かし、データサイエンス学環が独自に開設する科目と連係協力学部である情報学部、理工学部、経済学部が開設する科目とを有機的に連係させて学部横断型の教育課程を編成する。

（2）数理科学・統計学・情報科学の基礎の修得

データサイエンス学環独自開設科目と情報学部の一部開設科目を通じて、データサイエンスの学びに必要な数理科学・統計学・情報科学の基礎となる科目を主に 1 年次に必修科目で配置し、生涯に亘って新しい知識・技術の獲得と更新とを続けられるよう、それらの基礎を確実に身に付けられるようにする。

（3）データサイエンスの活用に必要な知識・技術の修得

数理科学・統計学・情報科学の基礎を修得した上で、データサイエンスを社会課題の発見と解決に活用するための知識・技術を修得できるよう、活用に必要な科目を主に 1・2 年次に必修科目、または選択科目で配置し、高年次から始まるデータサイエンスの発展的な学びや応用的な学びに備えられるようにする。

（4）連係協力学部の専門性を活かした応用分野に関する知識の修得

データサイエンスの基礎となる知識や活用するための知識・技術を修得した上で、データサイエンスが活用される場や対象となるデータを理解し、各分野で応用することができるように、学部の専門性を活かし、情報学分野、理工学分野、経済学分野の科目をそれぞれ系統立てながら選択科目で配置し、2～4 年次に体系的に学べるようにする。

（5）演習・実習及び卒業研究を通じた実践力の修得

データサイエンスを実践し、知識・技術と実社会や他の科学との統合を図るため、演習・実習科目を 2・3 年次に配置し、4 年間の学びの集大成となる卒業研究を 4 年次に配置する。いずれも必修科目とし、知識・技術を修得する学びと関連づけながら体系的に体験することで、データサイエンスの実践力を卒業後も高めていけるようにする。

2．教育方法の考え方

（1）学部等連係課程としての学部横断型の学び

連係協力学部の情報学部、理工学部、経済学部が担当教員を含め連係・協力することにより、学部横断型の教育課程を実現するとともに、概論科目や演習科目では、各連係協力学部の専門性を活かした学部横断型授業に取り組む。

（2）履修モデルの提示と指導

卒業後の進路に基づいた履修モデルを提示し、4 年間の学びを俯瞰させ、体系的かつ

効果的な履修が可能なように指導を行う。
（３）主体的な学び
主体的・能動的な学びを自立して行えるよう、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。
（４）演習・実習による実践的な学び
演習・実習における体験を通じて知識・技術の定着を図るとともに、グループワーク等により分業や協働を実践する。さらに実社会における実践力を高めるため、課題解決の過程や検討結果をプレゼンテーションする機会を設ける。

３．評価方法の考え方
データサイエンス学環のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、個々の科目の到達目標を設定し、シラバスにその到達目標をはじめ、成績評価基準、評価の方法・総合評価割合を具体的に示すとともに、科目ガイダンス等で説明の上、各科目の特性に応じた適切な方法を用いて到達状況を把握し、評価を行う。
また、自己評価や相互評価を必要に応じて行い、それらに教員による客観的評価を合わせて自らの振り返りを行うことで、自らの知識・技術や学び続ける態度、評価・改善能力を将来に亘って向上できるようにする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/）

（概要）
【知識・技能】
・AP1：数理科学・統計学・情報学を中心として、大学で学ぶために必要な語学、数学や情報に関する基本的知識・技能を習得している。
・AP2：課題や問題の解決に向けて、柔軟な発想を持ち、論理的に考えて的確に判断する素養を備えている。
【思考力・判断力・表現力】
・AP3：人や社会とデジタルデータとの関わりに関心を持ち、データを分析することによって見いだす新たな価値を、人や社会のために活かしたいと言う意欲を有している。
・AP4：未知の事柄について、真摯に学び続けることに意欲を有している。
【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】
・AP5：自らの考えやデータ分析から得られた新たな知見を、会話や文章表現などを適切に用いて他者に伝え、理解や共感を得ようとする姿勢を有している。
・AP6：自身のみならず他者の考えや価値観を尊重し、共に新たな知見を得ようとする姿勢を有している。

1. 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜における評価方法と評価基準
一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・スカラシップ選抜では、科目別の学力試験、志望理由（スカラシップ選抜のみ）および面接試験（一般選抜Ⅲ期のみ）により、「学力の三要素」のうち主に「基礎的・基本的な知識・技能」を基準として、データサイエンス学環のアドミッションポリシー（AP）に示した能力・資質を評価します。

２．学校推薦型選抜における評価方法と評価基準
学校推薦型選抜では、データサイエンス学環で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。
エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。
調査書により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」を基準として、AP1・AP2 に示す能力・資質を評価します。
面接試験により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP5・AP6

に示す能力・資質を評価します。

３．総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）における評価方法と評価基準

総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ期）では、データサイエンス学環で学びを進めていくために必要な能力・資質について、以下のような方法と基準で評価します。

エントリーシートにより、「学力の三要素」のうち「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP4・AP5 に示す能力・資質を評価します。適性テストまたは小論文により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP1・AP2・AP3 に示す能力・資質を評価します。

面接により、「学力の三要素」のうち「❶知識・技能」と「❷思考力・判断力・表現力等」と「❸主体性を持ちつつ他者と協働する態度」を基準として、AP1・AP2・AP3・AP5・AP6 に示す能力・資質を評価します。

４．総合型選抜（学びの探究）における評価方法と評価基準

総合型選抜（学びの探究）では、高校における探究活動での成果について、まとめ・表現を行うプレゼンテーションを行います。またその内容に基づいた質疑応答を含む面接を実施します。これにより「学力の三要素」全てを基準として、AP1・AP2・AP3・AP4・AP5・AP6 に示す能力・資質を評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	5 人	－					5 人
理工学部	－	25 人	8 人	0 人	0 人	0 人	33 人
人文学部	－	25 人	9 人	0 人	2 人	0 人	36 人
経済学部	－	15 人	7 人	0 人	0 人	0 人	22 人
情報学部	－	11 人	5 人	0 人	3 人	0 人	19 人
教育学部	－	71 人	23 人	0 人	5 人	0 人	99 人
経営学部	－	20 人	1 人	0 人	0 人	0 人	21 人
デザイン学部	－	10 人	4 人	0 人	0 人	0 人	14 人
心理学部	－	15 人	3 人	0 人	0 人	0 人	18 人
建築学部	－	12 人	6 人	0 人	1 人	0 人	19 人
データサイエンス学環	－	3 人	2 人	0 人	0 人	0 人	5 人
附置研究所	－	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	6 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	562 人	562 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.iag.meisei-u.ac.jp/meuhp/KgApp

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
理工学部	270 人	304 人	112.6%	1,080 人	1,046 人	96.7%	0 人	0 人
人文学部	310 人	432 人	139.4%	1,270 人	1,532 人	120.6%	0 人	0 人
経済学部	250 人	356 人	142.4%	1,000 人	1,217 人	121.7%	0 人	0 人
情報学部	145 人	152 人	104.8%	565 人	673 人	119.1%	0 人	0 人
教育学部	350 人	456 人	130.3%	1,400 人	1,835 人	131.1%	0 人	0 人
経営学部	200 人	281 人	140.5%	800 人	983 人	122.9%	0 人	0 人
デザイン学部	120 人	146 人	121.7%	480 人	562 人	117.1%	0 人	0 人
心理学部	120 人	154 人	128.3%	480 人	621 人	129.4%	0 人	0 人
建築学部	135 人	186 人	137.8%	525 人	634 人	120.8%	0 人	0 人
データサイエンス学環	30 人	43 人	143.3%	120 人	124 人	103.3%	0 人	0 人

教育学部（通信教育課程）	2,000 人	82 人	4.1%	8,000 人	2,720 人	34%	0 人	0 人
合計	3,930 人	2,592 人	66%	15,720 人	11,947 人	76%	0 人	0 人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
理工学部	180 人（100%）	21 人（11.7%）	155 人（86.1%）	4 人（2.2%）
人文学部	211 人（100%）	3 人（1.42%）	198 人（93.8%）	10 人（4.7%）
経済学部	179 人（100%）	6 人（3.4%）	162 人（90.5%）	11 人（6.1%）
情報学部	132 人（100%）	6 人（4.5%）	118 人（89.4%）	8 人（6.1%）
教育学部	364 人（100%）	17 人（4.7%）	338 人（92.3%）	9 人（2.5%）
経営学部	187 人（100%）	4 人（2.1%）	176 人（94.1%）	7 人（3.7%）
デザイン学部	88 人（100%）	0 人（0%）	83 人（94.3%）	5 人（5.7%）
心理学部	121 人（100%）	12 人（9.9%）	104 人（86%）	5 人（4.1%）
建築学部	124 人（100%）	12 人（9.7%）	110 人（88.7%）	2 人（1.6%）
合計	1,586 人（100%）	81 人（5.1%）	1,444 人（91%）	61 人（3.9%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

本学では、全学的に統一した書式で授業計画（シラバス）を作成している。記載項目としては、「科目名」「担当教員」「授業形態（講義、演習、実験・実習）」「授業の到達目標」「授業科目の概要」「成績評価基準」「評価の方法・総合評価割合」「テキスト等、学修のために購入・準備が必要なもの」「履修上の注意事項、事前・事後学修に必要な目安時間、フィードバックの方法、学修上の助言」等であり、学生の授業科目受講の準備や授業科目選択に資する内容となっている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

成績評価は、明星大学学則において、「各授業科目の試験成績の評価は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｐ又はＦ、Ｈで表しＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ及びＰを合格とし、Ｆ、Ｈを不合格とする」とし、合否判定科目の成績評価、評価基準を定めている。また、通信教育課程では、明星大学通信教育部学則および明星大学通信教育部教則において、成績の評価は、優、良、可、不可で表し、優、良、可を合格とし、不可を不合格とすることを規定している。

学位授与に関する条件は、明星大学学則及び明星大学通信教育部学則にて、在学年数及び修得単位数、そして大枠の科目区分ごとの必要単位数を定めている。これを受けて、明星大学教則及び明星大学通信教育部教則において、学部学科ごとに、具体的・詳細な必要単位数の内訳等を定めている。これら規程で定められている卒業要件は、『履修の手引』等を通じて学生に明示されている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
理工学部	総合理工学科	124 単位	有・無	単位
人文学部	国際コミュニケーション学科	124 単位	有・無	単位
	人間社会学科	124 単位	有・無	単位
	日本文化学科	124 単位	有・無	単位
	福祉実践学科	124 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
情報学部	情報学科	124 単位	有・無	単位
教育学部	教育学科	124 単位	有・無	単位

経営学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
デザイン学部	デザイン学科	124 単位	有・無	単位
心理学部	心理学科	124 単位	有・無	単位
建築学部	建築学科	124 単位	有・無	単位
データサイエンス学環		124 単位	有・無	単位
教育学部（通信教育課程）	教育学科	124 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/campus/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
理工学部	総合理工学科	990,000 円	230,000 円	420,000 円	
人文学部	国際コミュニケーション学科	840,000 円	230,000 円	370,000 円	
	人間社会学科				
	日本文化学科				
	福祉実践学科				
経済学部	経済学科	780,000 円	230,000 円	350,000 円	
情報学部	情報学科	970,000 円	230,000 円	420,000 円	
教育学部	教育学科	870,000 円	230,000 円	370,000 円	
経営学部	経営学科	780,000 円	230,000 円	350,000 円	
デザイン学部	デザイン学科	990,000 円	230,000 円	420,000 円	
心理学部	心理学科	870,000 円	230,000 円	370,000 円	
建築学部	建築学科	990,000 円	230,000 円	420,000 円	
データサイエンス学環		970,000 円	230,000 円	420,000 円	
教育学部（通信教育課程）	教育学科	147,000 円	50,000 円	6,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

１年生全員が履修する全学共通科目「学びとキャリア」において、学修システム上で、欠席が続く学生について担当教員より、授業の出席を促したり、レポート提出を呼びかけるなど、出席状況等の把握をおこなっている。

この科目以外にも留年者を減少させるために、出席状況に問題のある学生については、学部支援センターが実態を把握し、学部支援センター職員が本人と、事例によっては保護者に連絡・面接を行って出席確保のための指導にあたっている。この情報は教員にも提供され、多くの学科ではゼミ教員が面接・指導を行って、留年防止に努めている。また、2026 年度より、出席率データを活用し、1 年次学生の全科目の出席率が 85%以下の学生およびその保証人に対し、早期（4 月末）に電子メールを送信するとともに、学内相談窓口を案内するなどのプレサポートを実施している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

全学科向けのキャリア形成科目を１年次から学年ごとに体系的に開講しており、自身の学びやキャリア、社会や仕事など理論と実践を通じて学んでいる。また、各学科においてもキャリア関連科目を開講して進路選択につながる支援を行っている。

卒業後に民間企業や公務員を目指す学生に対しては、就職センターを中心に就職活動全般の支援を行っている。学生が自ら業種・職種、企業等を選択できるよう幅広い情報提供や様々な就職支援イベントを開催している。学年に合わせて、就職ガイダンスや各種対策講座、インターンシップ等や筆記試験対策、公務員や資格取得支援など、学生の多様な進路を踏まえながら実施している。また、学科等と連携を図りながら、各学部・学科の特性、要望に応じて、授業内等におけるガイダンスを実施している。各学科の就職委員を中心に教員と連携を図りながら、学生の就職活動状況を把握する体制を構築し、学生一人ひとりの活動状況に応じた就職支援に努めている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
　学生の心身の健康保持・増進及び安全衛生の配慮として、保健管理室、ユニバーサルデザインセンター、学生相談室、診療所を設置しており、身体のみならず精神・発達の問題を抱えた学生への対応ができるようにし、必要に応じて各学科の教員や関連部署と連携をしながら、学生支援に取り組んでいる。
　保健管理室では、校医と看護師による学生を対象とした保健相談・健康相談、応急処置を、ユニバーサルデザインセンターは臨床心理士による障害のある学生の修学支援相談を行い、学生相談室では臨床心理士による学生相談を行っており、診療所は内科・精神科医師による保険診療を行っている。
　また、体育館内にあるフィットネスルームでは、様々なトレーニング機器等を設置し、専属トレーナーやスタッフによる指導の下、学生が利用できる環境を整備しており、健康増進に役立っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310103858
学校名（○○大学 等）	明星大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人明星学苑

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1770人（1040）人	1737人（1016）人	1841人（1097）人
内訳	第Ⅰ区分	506人	464人	
	（うち多子世帯）	（111人）	（82人）	
	第Ⅱ区分	188人	201人	
	（うち多子世帯）	（31人）	（33人）	
	第Ⅲ区分	133人	139人	
	（うち多子世帯）	（28人）	（37人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	73人	69人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	205人	184人	
	区分外（多子世帯）	665人	680人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（－）人
合計（年間）				1850人（1098）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	42人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	48人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	－人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	－人	人	人
計	92人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	－人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	－人
３月以上の停学	－人
年間計	－人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	21人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	12人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	254人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	－人	人	人
計	273人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。